

年度の研究発表会のテーマ「自ら学ぶ子供」という事を感じ取ることが出来ました。

大阪府箕面市立萱野小学校6年生
1999年12月14日

朝日新聞に掲載されたアークの活動に関する記事（1999年10月3日朝刊）がきっかけとなり、「いのちの教育」ということに関して授業に参加してもらえないか、という依頼を受けました。当日の授業に先立ち、アークの活動だけではなく、日本の動物を取り巻く問題点や、外国での動物保護活動などを広い視点で取り上げた番組「ザ・スコープ〜ダルメシアン涙の涙」を事前に授業の中で視聴してもらい、日本の動物を取り巻く現状などについての勉強が行われました。この番組では、飼い主から見捨てられた動物の結末や、保健所での殺処分の方法、避妊去勢手術の必要性、ペットショップの販売・管理方法の問題点に加えて、イギリスの動物愛護の現状などを紹介しています。先生方も、アークの資料や、今までアークが関わって来た学校教育関

係の資料を事前に参照され、動物福祉全体の事についての知識を深められました。

当日は、アーク代表のオリバー、アークのスタッフ2名と、アークの親善大使のチョビとモモトゥが参加しました。6年生全員、約80名が視聴覚室に集まり、直接床に座って、その回りをチョビとモモトゥが自由に歩き回っているような、リラックスした雰囲気の中で授業が進みました。

まず最初に、子供たちが自分の飼っている動物に対して、また動物を保護するという事に関してどのような意識を持っているのかを確認するため、アンケートを行いました。その次に、子供向きの番組で、NHKで紹介された「ペットの命」というアークの活動を紹介したビデオを視聴し、それからビデオでは紹介されなかった、アークのその他の活動である「動物を守るための法律の改正」「CAPP（動物介在活動）や聴導犬の育成などの人間と動物との新しい関係作り」「子供たちへの教育活動」などの説明を行いました。

その後、チョビとモモトゥに

活躍してもらい、初めて犬に出会った時の触り方や、簡単なトレーニング（お座り、伏せ、待てなど）の方法のデモンストレーションを行いました。子供たち数名にも実際に体験してもらいました。簡単なレクチャーでしたが、今まで動物をよく知らなかったり、あまり動物が好きではなかった子供たちにも、犬がこの様に人なつこくて、よくしつけられる事を知り、多くの発見があったようです。

質問のコーナーでは、ほぼ全員が質問を準備しており、子供たちの積極性と明るさに驚かされました。質問の中には、「オリバーさんにとって命とは何ですか？」といった、かなり深い内容のものもありました。

授業の最後に、今回の訪問のお礼にと、子供たち自身の提案で、自分たちで作ったケーナ（箏笛）で「コンドルは飛んでいく」を全員で合奏してくれました。子供たちの自主性の高さ、それを寛容に受け入れ、それぞれの個性を伸ばしている先生方と学校全体の意識の高さ、それに先生と子供たち一人一人を結び強い絆を感じるこ

とが出来ました。

2000年に入り、6年生担任の先生が、出来上がった写真と作文を届けて下さるために、再度アークを訪問して下さいました。チョビとモモトゥに触れている子供たちの活き活きとした表情や、動物の命に対する意識の変化を記した作文には、私たちの心を深く揺り動かすものがありました。（子供たちの作文は、アークのホームページ <URL <http://www.wombat.or.jp/arkbark/>> に掲載する予定です）

このような活動を通して、子供たちが適切な動物の飼い方や動物福祉についての理解を深めながら、現在の動物を取り巻く様々な問題に目を向け、真剣に考えてくれる人間に育ってくれることを切に願います。



problems inherent in the sale and care of animals in Japan's unregulated pet shops, and also introduced animal welfare activities in Great Britain. The teachers also studied various other materials from ARK in advance, to deepen their knowledge of animal welfare in general.

The visit to the school was made by Elizabeth Oliver and two staff members, accompanied by ARK's goodwill ambassadors Chobi and Momo Too. All of the school's 6th-graders, about 80 children in all, gathered in the school's auditorium, where they sat on the floor. The lesson took place in a relaxed atmosphere, with Chobi and Momo Too free to move around among the kids. First, we handed out questionnaires to find out about the children's attitudes to their own pets, if any, and what animals protection meant to them. Next, we showed a program for children aired on NHK that featured ARK and its activities.

Finally, we talked about ARK activities that were not introduced in the video, such as our efforts to amend the Animal Protection Law; our promotion of companion animals and guide dogs; and our educational activities.

After this lecture part of the lesson, Chobi and Momo Too helped us demonstrate how to pet a dog you're meeting for the first time, and how to teach simple training commands (Sit, Down, Wait etc.).

We had a few children come up front to try it, too. It was a very simple lesson, but especially for those children who had little previous experience with animals, or who didn't like animals before, it provided many new discoveries, such as how friendly dogs are and how easy they are to train.

In the question-and-answer session afterwards, we were struck by the students' openness and positive attitudes: virtually every child present had a



question to ask! Some of these were quite profound; one child asked Liz Oliver what "life" meant to her.

At the very end of the lesson, the children played El Condor Pasa on flutes they had made themselves, to thank us for coming.

After the New Year holidays, one of the 6th-grade teachers came to ARK to bring us the photos from our visit, and also compositions written afterwards

by the students. The vibrant expressions on the children's faces as they played with Chobi and Momo Too, and their descriptions of the change in their awareness with regard to animals' lives, moved us deeply. (We plan to have the children's compositions on ARK's homepage, at <http://www.wombat.or.jp/arkbark/>.)